



2025年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月12日

上場会社名 株式会社アイキューブドシステムズ 上場取引所 東
 コード番号 4495 URL https://www.i3-systems.com/

代表者（役職名） 代表取締役 執行役員社長 CEO （氏名） 佐々木 勉
 問合せ先責任者（役職名） 経理財務部長 （氏名） 増田 恵美子 （TEL）092-552-4358
 半期報告書提出予定日 2025年2月12日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年6月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年7月1日～2024年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期中間期	1,716	20.4	423	27.2	422	27.5	280	26.2
2024年6月期中間期	1,425	8.4	333	6.7	331	6.3	222	5.0

（注）包括利益 2025年6月期中間期 274百万円（23.3%） 2024年6月期中間期 222百万円（5.0%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期中間期	54.98	54.52
2024年6月期中間期	42.02	41.63

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年6月期中間期	3,546	2,693	75.6
2024年6月期	3,609	2,579	71.2

（参考）自己資本 2025年6月期中間期 2,683百万円 2024年6月期 2,570百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	—	0.00	—	32.00	32.00
2025年6月期	—	0.00	—	—	—
2025年6月期（予想）	—	—	—	32.00	32.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年6月期の連結業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,503	18.8	809	17.0	786	17.7	539	16.5	105.80

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 当社は2024年12月28日付けで「ワンビ株式会社（証券コード：5622）の株式に対する公開買付けの結果及び子会社の異動（特定子会社の異動）に関するお知らせ」を公表しておりますが、2025年6月期連結業績に与える影響については現在精査中であり、連結業績予想には織り込んでおりません。

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年6月期中間期	5,306,750株	2024年6月期	5,303,750株
② 期末自己株式数	2025年6月期中間期	200,168株	2024年6月期	200,168株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2025年6月期中間期	5,103,827株	2024年6月期中間期	5,293,377株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結会計期間	6
中間連結包括利益計算書	7
中間連結会計期間	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社グループは、パーパスを「笑顔につながる、まだ見ぬアイデア実現の母体となる」、提供価値を「デザインとエンジニアリングの力で、挑戦を支える」と定義した上で、「挑戦を、楽しもう。」をブランドスローガンに掲げ、挑戦的な文化を醸成し、ITを軸とした様々な挑戦を積極的に進めていく企業を目指しております。

事業内容としては、企業、教育、医療の現場で活用されるモバイル端末の一元管理・運用を行うSaaS (Software as a Service) を提供する「CLOMO事業」を主軸に展開しております。また、CVC (コーポレートベンチャーキャピタル) やM&Aを通じた投資活動により、グループの持続的成長とスタートアップ企業の新たな価値創造を支える「投資事業」を運営しております。

組織面では、様々なライフイベントに応じた柔軟な働き方を実現するための各種制度を設け、性別や国籍を問わない採用活動により、多様性のある組織づくりを推進しております。また、人材育成のための研修などの成長支援を通じて、挑戦を積極的に行う文化の醸成に取り組んでおります。このような取り組みの結果、Great Place to Work® Institute Japanが世界共通の基準で従業員の意識調査を行う、「働きがいのある会社」ランキングにおいて、5年連続で働きがいのある会社として認定されております。

当中間連結会計期間においては、ワンビ株式会社の株式に対する公開買付けを実施しました。同社は、Windows PC向けの情報漏洩対策製品の開発・提供を主たる事業としており、Windows PCの管理・セキュリティ分野において豊富な知見と高い開発力を有しております。同社製品をCLOMOサービスの既存顧客にクロスセルすることで、CLOMO事業におけるARPU(注1)の向上を目指すとともに、同社が有する流通商社を中心とした販路を活用することで、CLOMOサービスのWindows PCへの導入を加速させ、顧客基盤のさらなる拡大を目指してまいります。

経営成績の状況について、売上高は、CLOMO事業でOEM提供による新規顧客の獲得が進んだことに加え、投資事業で営業投資有価証券の売却による売上が発生し、前年同期比で増加しました。売上原価は、CLOMO事業でソフトウェアに対する顧客からの要望に応じ、一部の軽微な改修を優先した結果、製造経費が増加したことに加え、投資事業における売上原価の発生により、前年同期比で増加しました。販売費及び一般管理費については、人件費の増加に加え、ワンビ株式会社の株式に対する公開買付けに係る諸費用等が発生したことにより、前年同期比で増加しました。なお、人件費は、積極的な採用活動や、2024年4月に完全子会社化した10KN COMPANY LIMITEDの損益計算書を当中間連結会計期間から連結対象に含めたことにより増加しております。

この結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高1,716,554千円(前年同期比20.4%増)、営業利益423,960千円(前年同期比27.2%増)、経常利益422,187千円(前年同期比27.5%増)、親会社株主に帰属する中間純利益280,630千円(前年同期比26.2%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① CLOMO事業

CLOMO事業においては、2010年から提供を開始したモバイル端末管理ソフトウェアサービス「CLOMO MDM」及びモバイル端末向けアプリサービス「CLOMO SECURED APPs」を事業の主軸に、クラウドを利用したB to BのSaaS事業をサブスクリプションの形で提供しており、2024年12月に公表されたMDM市場(自社ブランド)シェアにおいて、2011年度から14年連続でシェアNo. 1を達成しました(注2)。さらに、CLOMOサービスは2024年2月に「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度(ISMAP)(注3)」に登録され、政府が求める高いセキュリティ水準をクリアしたサービスとして認められております。

当中間連結会計期間においては、引き続き、既存及び新規の販売パートナーとの連携を強化し、販売網を強化・拡大しております。また、自社ブランド製品であるCLOMO MDMの販売に加え、OEM製品の展開にも取り組んでおり、株式会社NTTドコモが提供するMDMサービス「あんしんマネージャーNEXT(注4)」へのOEM提供を行っております。

また、CLOMO事業のさらなる成長に向け、顧客基盤の拡大に加えて、ARPUの向上が重要であるため、オプションサービスの拡充戦略を推進しております。具体的には、セキュリティ対策製品や運用支援サービスなど、MDMの周辺サービスをラインナップし、クロスセルを通じたARPUの向上に取り組んでおります。

製品開発においては、CLOMOサービスのPC資産管理市場でのシェア獲得に必要となるWindows端末向けの機能強化のほか、他社製品との連携、オプションサービスの機能拡充など、顧客のニーズに応えるための開発活動に注力しております。さらに、従来より提供していたホーム画面カスタマイズアプリの機能を拡充し、新名称

「CLOMO HOME」としてリリースしました。今回の機能拡充により、アプリを効率的に配置するフォルダ機能や、ユーザーが操作できる設定を残しつつ他の設定変更を制限する機能が追加され、管理者は業務用途外の使用を防ぎながら、モバイル端末をより効果的に運用できるようになります。

これらの取り組みにより、導入法人数は7,694社(前連結会計年度末に比べ984社、14.7%増)に達しました。

この結果、売上高は1,595,562千円(前年同期比11.9%増)、営業利益は411,598千円(前年同期比20.6%増)となりました。

なお、サービス別の内訳は次のとおりであります。

CLOMO MDM	売上高	1,446,998千円
SECURED APPs	売上高	75,315千円
その他	売上高	73,248千円

② 投資事業

投資事業では、ベンチャーキャピタル子会社である株式会社アイキューブドベンチャーズを通じてアイキューブド1号投資事業有限責任組合を設立し、CVCとして投資活動を推進しております。

主な投資対象はモバイル、SaaS、セキュリティ等、当社事業領域と親和性の高い企業、社会課題解決型企業及び当社グループが本社を置く九州の地場で活動している企業としております。また、当社グループの新たな市場領域への進出及び収益源の創出を図るべく、M&Aを通じた新事業開発にも積極的に取り組んでおります。

当中間連結会計期間においては、新たに2社(注5)へ投資し、累計投資社数は9社となっております。また、アイキューブド1号投資事業有限責任組合における営業投資有価証券の売却による収益を当中間連結会計期間において計上しました。

この結果、売上高は120,991千円(前年同期は一千円)、営業利益は12,361千円(前年同期は営業損失7,909千円)となりました。

(注) 1. Average Revenue Per Userの略称であり、導入法人数当たりの平均月間単価。

2. 出典 デロイト トーマツ ミック経済研究所「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望 (<https://mic-r.co.jp/mr/00755/>)」2011~2013年度出荷金額、「MDM自社ブランド市場(ミックITレポート12月号: <https://mic-r.co.jp/micit/2024/>)」2014~2023年度出荷金額・2024年度出荷金額予測。
3. 政府が求めるセキュリティ要求を満たしているクラウドサービスを予め評価・登録することにより、政府のクラウドサービス調達におけるセキュリティ水準の確保を図り、円滑に導入できることを目的とした制度です。本制度は「政府情報システムにおけるクラウドサービスのセキュリティ評価制度の基本的枠組みについて」(2020年1月30日サイバーセキュリティ戦略本部決定)に基づき、内閣サイバーセキュリティセンター・デジタル庁・総務省・経済産業省が運営しています。
4. 株式会社NTTドコモが提供しているモバイル端末管理サービスです。主に、社員・生徒に貸与したモバイル端末に対して紛失・盗難時に有効な「ロック/初期化」機能や、「カメラ制御」「利用可能アプリの制限」などのセキュリティ機能、「アプリ配信」などのデバイス管理業務効率化機能を備えています。
5. アイキューブド1号投資事業有限責任組合の決算日は連結決算日と異なっており、当中間連結会計期間においては、同組合の2024年9月30日に終了する中間会計期間の財務諸表を連結しております。そのため、当該投資につきましては当中間連結会計期間の連結財務諸表には反映されておられません。

(2) 当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における財政状態については次のとおりであります。

(資産)

総資産は3,546,665千円となり、前連結会計年度末に比べ62,573千円の減少となりました。これは主に、営業投資有価証券が99,992千円、ソフトウェアが73,795千円、のれんが18,436千円、売掛金が15,772千円減少し、投資その他の資産が65,354千円、ソフトウェア仮勘定が47,277千円、現金及び預金が34,498千円増加したことによるものです。

(負債)

負債は853,178千円となり、前連結会計年度末に比べ176,495千円の減少となりました。これは主に、契約負債が121,873千円、未払法人税等が34,914千円、その他流動負債が27,718千円減少し、賞与引当金が7,157千円増加したことによるものです。

(純資産)

純資産は2,693,486千円となり、前連結会計年度末に比べ113,921千円の増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益の計上に伴い利益剰余金が280,630千円増加し、剰余金の配当に伴い利益剰余金が163,314千円減少したことによるものです。この結果、自己資本比率は75.6%（前連結会計年度末は71.2%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は1,845,630千円となり、前連結会計年度末に比べ34,563千円の増加となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は402,235千円（前年同期は得られた資金517,549千円）となりました。これは主に、税金等調整前中間純利益422,187千円、減価償却費161,715千円、契約負債の減少額121,873千円、営業投資有価証券の減少額99,992千円、法人税等の支払額189,136千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は205,446千円（前年同期は使用した資金896,544千円）となりました。これは主に、無形固定資産の取得による支出132,693千円、その他の投資活動による支出68,778千円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は161,391千円（前年同期は使用した資金158,037千円）となりました。これは主に、配当金の支払額163,291千円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年6月期の連結業績予想につきましては、2024年8月14日公表の連結業績予想から変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,812,591	1,847,090
売掛金	332,127	316,355
営業投資有価証券	265,391	165,398
その他	115,215	117,085
流動資産合計	2,525,326	2,445,929
固定資産		
有形固定資産	44,061	40,919
無形固定資産		
ソフトウェア	246,828	173,033
ソフトウェア仮勘定	103,978	151,256
のれん	133,248	114,812
その他	7,417	6,983
無形固定資産合計	491,473	446,084
投資その他の資産	548,377	613,731
固定資産合計	1,083,912	1,100,735
資産合計	3,609,238	3,546,665
負債の部		
流動負債		
買掛金	46,590	47,443
未払法人税等	189,136	154,222
契約負債	483,634	361,760
賞与引当金	89,506	96,663
その他	220,805	193,087
流動負債合計	1,029,673	853,178
負債合計	1,029,673	853,178
純資産の部		
株主資本		
資本金	413,018	414,068
資本剰余金	313,018	314,068
利益剰余金	2,151,179	2,268,495
自己株式	△299,174	△299,174
株主資本合計	2,578,042	2,697,458
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,090	1,090
為替換算調整勘定	△8,944	△15,540
その他の包括利益累計額合計	△7,854	△14,450
新株予約権	6,486	7,703
非支配株主持分	2,890	2,775
純資産合計	2,579,565	2,693,486
負債純資産合計	3,609,238	3,546,665

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
売上高	1,425,640	1,716,554
売上原価	359,395	493,168
売上総利益	1,066,244	1,223,385
販売費及び一般管理費	732,867	799,425
営業利益	333,376	423,960
営業外収益		
受取利息	15	165
その他	1,482	1,521
営業外収益合計	1,498	1,686
営業外費用		
固定資産除却損	2,496	3,440
その他	1,134	17
営業外費用合計	3,631	3,458
経常利益	331,244	422,187
税金等調整前中間純利益	331,244	422,187
法人税等	108,924	141,472
中間純利益	222,320	280,715
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	△125	84
親会社株主に帰属する中間純利益	222,445	280,630

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
中間純利益	222,320	280,715
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	△6,596
その他の包括利益合計	—	△6,596
中間包括利益	222,320	274,118
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	222,445	274,034
非支配株主に係る中間包括利益	△125	84

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	331,244	422,187
減価償却費	165,594	161,715
のれん償却額	—	13,215
賞与引当金の増減額(△は減少)	8,823	7,262
受取利息	△15	△165
固定資産除却損	2,496	3,440
売上債権の増減額(△は増加)	△38,771	15,266
仕入債務の増減額(△は減少)	△18,142	968
契約負債の増減額(△は減少)	81,546	△121,873
営業投資有価証券の増減額(△は増加)	—	99,992
その他	51,766	△10,803
小計	584,542	591,207
利息及び配当金の受取額	15	165
法人税等の支払額	△67,008	△189,136
営業活動によるキャッシュ・フロー	517,549	402,235
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△500,000	—
有形固定資産の取得による支出	△4,819	△3,974
無形固定資産の取得による支出	△140,377	△132,693
その他	△251,347	△68,778
投資活動によるキャッシュ・フロー	△896,544	△205,446
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	590	2,100
配当金の支払額	△158,627	△163,291
非支配株主からの払込みによる収入	—	1,000
非支配株主への配当金の支払額	—	△1,200
財務活動によるキャッシュ・フロー	△158,037	△161,391
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	△834
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△537,032	34,563
現金及び現金同等物の期首残高	2,055,977	1,811,066
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,518,945	1,845,630

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			中間連結 損益計算書 計上額(注)
	CLOMO事業	投資事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,425,640	—	1,425,640	1,425,640
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,425,640	—	1,425,640	1,425,640
セグメント利益 又は損失(△)	341,286	△7,909	333,376	333,376

(注)セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当中間連結会計期間(自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			中間連結 損益計算書 計上額(注)
	CLOMO事業	投資事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	1,595,562	120,991	1,716,554	1,716,554
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,595,562	120,991	1,716,554	1,716,554
セグメント利益	411,598	12,361	423,960	423,960

(注)セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(重要な後発事象)

取得による企業結合(ワンビ株式会社に対する公開買付け)

株式会社アイキューブドシステムズ(以下「当社」という。)は、2024年11月29日開催の取締役会において、ワンビ株式会社(証券コード:5622)を当社の連結子会社とすることを目的として、株式会社東京証券取引所TOKYO PRO Market市場に上場している対象者の普通株式を金融商品取引法に基づく公開買付けにより取得することを決議し、2024年12月2日より公開買付けを実施していましたが、公開買付けが2024年12月27日をもって終了いたしました。

公開買付けの結果、2025年1月9日付(公開買付けの決済の開始日)で、ワンビ株式会社は当社の連結子会社となりました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称:ワンビ株式会社

事業の内容:コンピュータ及びインターネット用データ消去関連製品・サービスの開発・販売

② 企業結合を行った主な理由

当社のCLOMO事業は、これまでモバイル端末へのサービス導入を中心に事業を拡大してまいりました。しかし近年、OSを問わず多様なモバイル端末を統一的に管理したいという顧客ニーズが高まっております。当社は従来より、モバイル端末に加えてWindows PCの管理機能も自社で開発・提供してまいりましたが、こうした市場の変化に迅速に対応するためには、Windows PC向けサービスをさらに拡充する必要があります。

一方で、ワンビ株式会社はWindows PCの管理・セキュリティ分野において豊富な知見と高い開発力を有しており、流通商社を中心とする販路を通じた強固な顧客基盤を持つ企業であるため、同社と当社のCLOMO事業は親和性が高く、相互販売によるシナジー創出等が期待できます。このような背景から、ワンビ株式会社を子会社化することで、両社の事業連携を強化し、企業価値の向上を図れる可能性があるとの考えに至りました。

③ 企業結合日

2025年1月9日(株式取得日)

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

53.85%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	420,000千円
取得原価		420,000千円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料等 29,600千円

(4) 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

(5) 企業結合日に受け入れる資産及び引き受ける負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。